

項目	説明	
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	胃癌術後における予後予測因子としての術前 modified nutritional risk index (mNRI)の有用性
	研究対象者	2013 年 12 月から 2017 年 11 月に当院で胃癌に対し根治的胃切除を施行した 449 例 選択基準：原発胃癌または食道胃接合部癌、根治的リンパ節郭清を伴う根治切除、年齢 20 歳以上、ECOG PS 0-2
	研究目的	食道胃接合部癌を含む胃癌は世界で 5 番目に多い癌であり、癌関連死の原因の第 3 位である。現在の標準治療は ACTS-GC 試験や JACCRO-GC-07 試験の結果に基づき、根治的胃切除術+リンパ節郭清となっている。しかし、多くの胃癌患者の予後は不良のままである。したがって生存率を改善するためには胃癌患者の予後予測バイオマーカーの検索が必要と考えられる。近年、胃癌術後の予後予測因子として術前の栄養状態が注目を集めている。他癌腫においては術前の body mass index (BMI)と血清アルブミン(Alb)から求められる栄養評価指数である modified nutritional risk index (mNRI)が予後予測因子として有用であると報告されているが、胃癌での探索は不十分である。今回我々は、胃癌患者における予後予測因子としての術前 mNRI の有用性を検討する。
	研究方法	術前 mNRI (BMI + Alb) を計測した。カットオフ値は生存に対する ROC 解析で算出し、mNRI 高値群、mNRI 低値群に分け、患者背景、臨床病理学的因子、全生存期間(OS)との関係を評価する。
	個人情報保護	提供される患者さんの診療情報は、容易に個人を特定できないように匿名化して使用させていただきます
	研究期間	西暦 2023 年 5 月 15 日～西暦 2025 年 3 月 31 日
利用する試 料・情報の項 目(チェック[X] が入った項目を 利用します)	[]試料:	[]血漿、[]血清、[]全血、[]末梢血から抽出した DNA、 []病理検体(具体的に記載: _____)、 []尿、[]糞便、[]唾液、[]胸水、[]腹水、[]脳脊髄液、 []毛髪、[]その他(具体的に記載: _____)
	[✓]情報:	[✓]診断名(臨床病期や分類、病理診断を含む)、[✓]年齢、[✓]性別、 [✓]既往歴、[✓]併存疾患、[✓]外来日・入院日・退院日、[✓]臨床検査値、 [✓]放射線診断や超音波検査、内視鏡検査等の画像データ、 [✓]臨床所見・経過(予後追跡データを含む)、[✓]看護記録 []その他(具体的に記載: _____)
試料・情報を 利用する者の 範囲	当センター 研究責任者	消化器外科 渡邊勇人
	共同研究機関 および責任者	なし

	その他の機関	施設名（・氏名）
試料・情報の利用停止および 情報公開に関する窓口		神奈川県立がんセンター 消化器外科 渡邊勇人 045(520)2222(代) 利用停止のお申し出は 2023 年 10 月 1 日までをお願いいたします。